古典と遊ぶ

春爛漫 茂山狂言会

今年はずばり「鬼づくし」！
あんな鬼や、こんな鬼――
個性豊かな鬼たちが揃いました

12:30開演(11:45開場)
みんなで楽しく狂言会

全席指定 1,000円(税込) 3歳以上有料
(3歳未満のお子さまでも、座席が必要な場合は有料となります)

解説：茂山逸平

「鬼の継子（おにのままこ）」 鬼:茂山千五郎　女:茂山 茂

「伯母ヶ酒（おばがさけ）」 男:茂山千之丞　伯母:茂山宗彦

15:30開演(14:45開場)
お豆腐狂言会

A席 5,000円　B席 3,000円(全席指定/税込)
※未就学児童のご入場はご遠慮ください。

解説：茂山千之丞

「朝比奈（あさひな）」 朝比奈:茂山 茂
閻魔王:茂山千五郎

「清水（しみず）」 太郎冠者:茂山あきら
主人:茂山七五三

「首引（くびひき）」 親鬼:茂山宗彦　鎮西:茂山逸平
姫鬼:茂山千之丞
眷属鬼:島田洋海、井口竜也、山下守之
鈴木 実、柴田鉄平

2022年 4月 3日(日)

兵庫県立芸術文化センター 阪急 中ホール

〒663-8204 兵庫県西宮市高松町2-22　阪急西宮北口駅南改札ロスグ／JR西宮駅より徒歩15分（阪急バス7分）

ご予約・お問合せ 芸術文化センターチケットオフィス 0798-68-0255 (10:00-17:00 月曜休み ※祝日の場合翌日)

※プレイガイドでのお取扱いについては各プレイガイドにお問合せください。

一般発売	チケット予約
11.20(土)	●芸術文化センター 0798-68-0255 http://www.gcenter-hyogo.jp 芸術文化センター2階総合カウンター［11/21（日）より、残席がある場合のみ］ ●イープラス http://eplus.jp　●チケットぴあ http://pia.jp/t/　●ローソンチケット http://l-tike.com

※やむを得ない事情により、出演者・演目等が変更となる場合があります。あらかじめご了承ください。　※写真と実際の配役・演目は異なります。

主催：兵庫県、兵庫県立芸術文化センター

兵庫県立芸術文化センター

古典と遊ぶ

春爛漫 茂山狂言会

開館以来、毎春、芸術文化センターに満開の笑顔の花を咲かせてくれる茂山狂言会。今回は、0歳から気軽に楽しめる「みんなで楽しく狂言会」も、たっぷり狂言を満喫できる「お豆腐狂言会」も、テーマはともに“鬼づくし”！“鬼”と言えば恐ろしいイメージですが、狂言に出てくる鬼たちはちょっぴり抜けていたり、子煩悩だったりとなんだか愛すべきキャラクターたち。こんな“鬼”なら出会ってみたいと思ってしまうような個性的な鬼たちが登場します。
江戸時代より京都に息づき今もなお愛され続ける茂山千五郎家の「お豆腐狂言」をどうぞご賞味ください。

みんなで楽しく狂言会

「鬼の継子」おにのままこ

乳飲み子を連れて親里へ帰る女が、播磨の国、印南野（いなみの）で鬼と出会います。鬼は子供とも食べようとしますが、命乞いをする女に一目惚れして、自分の女房になれと脅します。女はやむなく結婚を承諾し、子供はどうするかと尋ねます。鬼は自分にとっては継子になるので、蓬萊（ほうらい）の島へ一緒に連れていって育ててやると約束します。女が身支度をする間、子守を頼まれた鬼は、子をあやしているうちに、急に本性をあらわして、子供を食べようとしますが…

©川西善樹

蓬萊の島とは中国の神仙思想に説かれる三神山のひとつで、中国・日本の伝承上の島です。不老不死の薬を持つ仙人が住むと考えられておりました。おそろしい鬼が次第に夢中になって子をあやすところが見どころです。

「伯母ケ酒」おばがさけ

酒好きの男は、酒屋を営む伯母に、酒を飲ませて欲しいと度々ねだりますが、中々飲ませてくれません。今日も色々と企みを考えてきましたが、あっさりと断られてしまいます。そこで男は「近所で鬼が出た！」と嘘をついて帰ると見せかけ、鬼の姿に化けて忍んでいます。夜になると伯母の家に行き、脅して酒を飲みます。しかし、だんだんと酔いが回っていくうちに…

©桂 秀也

鬼を表す面は「武悪」と言います。装束などは変えずに、鬼の面をつけるだけで鬼に化けたことを表す狂言らしい演出です。類似曲に「清水」があります。

お豆腐狂言会

「朝比奈」あさひな

仏教信仰が広まり人間が極楽へばかり行くので、地獄が閑散として思わぬ飢饉となってしまいます。閻魔大王自ら地獄の危機に亡者を地獄へ追い落とそうと、六道の辻へやってきます。そこへ通りかかったのが、和田合戦で活躍した朝比奈三郎義秀。閻魔大王はさっそく地獄へ攻め落とそうとしますが、朝比奈は全く動じません。諦めた閻魔王は、朝比奈に和田合戦の様子を語らせることにするのですが…

©川西善樹

朝比奈は鎌倉時代初期に、和田合戦で最も活躍した武将です。朝比奈が語る和田合戦の様子は、所作を加えた仕方話で、語り物の魅力を伝えてくれます。

「清水」しみず

お茶の会を開くことになった主人は、太郎冠者に命じて、お茶の会で使う水を清水へ汲みに行かせます。しかし、お茶の会の度に水を汲みに行かされては迷惑だと思った太郎冠者は、「清水に鬼が出た！」と嘘をついて逃げ帰ってきます。主人は、太郎冠者が置いてきた大切な手桶を惜しがり、自ら清水に行って桶を探してくると言い出します。ここで鬼が出なければ自分の嘘がばれてしまう、と困った太郎冠者は先回りをして、鬼の面をかぶって主人を脅すことに。あわてて逃げて帰る主人。一旦は太郎冠者の悪知恵もうまくいくのですが…

©川西善樹

太郎冠者が鬼のことを「ガゴゼ」と言いますが、「ガゴゼ」とは奈良の元興寺の訛りです。中世には廃寺となって鬼が住んでいたと信じられていたことから、化物・鬼の類の呼び名になっておりました。

「首引」くびびき

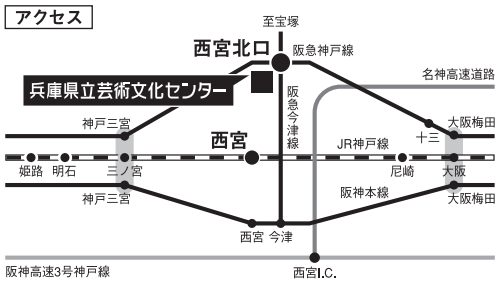
鎮西八郎為朝ゆかりの者が、都への帰りに播磨の国、印南野（いなみの）を通りかかった際に、人食い鬼に襲われます。鬼は男が中々の男前のため、娘の姫鬼に人間の食い初めをさせてやろうと、姫鬼を呼び出します。しかし姫鬼は美形の男に一目ぼれ、男の咳にも怯える始末。それを見た男は姫鬼と勝負をして、自分が負ければ姫鬼に食われましょう。また勝ったならば命を助けて欲しいと提案します。「腕押し」「すね押し」と勝負をしますが、いずれも男が勝ってしまいます。最後に「首引」の勝負をしますが、どうしても姫鬼が劣勢のため、親鬼はほかの鬼たちに加勢をさせますが…

©川西善樹

首引とは首に綱を掛けて引き合う綱引きです。本来は恐いはずの鬼ですが、この狂言に登場する親鬼は人間にも劣らぬ子煩悩です。親馬鹿ぶりを発揮する親鬼とそれに甘える姫鬼に焦点が当てられているところが、やはり狂言らしい世界です。

《チケットご購入のお客様へお願い》新型コロナウイルス感染予防対策にご協力をお願いします。

※芸術文化センターでのご購入時には、来場者情報把握のため、先行予約会員（無料）へのご登録をお願いしております。なお、「みんなで楽しく狂言会」はお一人様4枚、「お豆腐狂言会」はお一人様2枚までとさせていただきます。
※入場者数を制限して販売する場合があります。
※プレイガイドでの販売はインターネットのみとさせていただきます。
取扱いについては各プレイガイドにお問合せください。
※37.5℃以上の発熱がある方は入場をお断りさせていただきます。
※マスクを着用されない方はご入場いただけません。（マウスシールド不可）
※感染の再拡大等により、公演の中止や、出演者、公演内容、座席配置等が変更となる場合がございます。

ご来場前にウェブサイト掲載の〈当センターをご利用のお客様へ〉をご確認ください

アクセス